

国内研修成果報告書

「世界一素敵な過疎の町～北海道檜山郡厚沢部町～」

日時:平成 28 年 1 月 31 日～2 月 5 日

場所:北海道檜山郡厚沢部町

〈前書き〉

・今回、私が国内研修に参加することになったきっかけは、友人に勧誘されたことから始まる。

秋学期のある日、私は国内研修に行くことと決意した 2 人の友人に君も来ないかと誘いを受けた。結果的に私は了承し、行くことになったのだが、少し前の自分なら断っていたかもしれない。というのも、私は今まで 1 年生の今はまだ机上の学習で十分、フィールドに出るのはもっと先の話でも良いのではないかと、正直フィールドに出て遠くまで学習しに行くのは面倒くさいとさえ考えていたからだ。

しかし、私は「フィールドスタディ入門」でゲスト講師として我々に講義をしてくださった、地域おこし協力隊員で法政大学 OB の川合龍成さんの「先のことを考えて、今アクションを起こさないのはもったいない」という言葉を聞いて、行動を起こさない自分で本当に良いのか…と考えるようになり、まずは経験することが大事だと思い、今一番興味のあるまちづくりの方策について学べるのではないかと、参加することを決意したのである。

〈厚沢部町について〉

・我々が今回訪れた北海道檜山郡厚沢部町は、北海道の中心市街地である函館から車で約 1 時間ほどのところにある、高齢化率 37.6% (2015 年) のいわゆる過疎地域である。

厚沢部町では、「素敵な過疎の町づくり」というテーマを掲げており、「地域おこし協力隊」という地域協力活動を行う団体と協力し、「過疎」という言葉をポジティブに捉え、強みにさえして地域づくりを行っている町であり、それに興味を持った我々は、今回厚沢部町を研修先に選定した。

〈活動内容・気づき〉

・1/31~2/1、最初の 2 日間、我々国内研修団一行は飛行機も新幹線も利用せず、在来線を乗り継いで北海道を目指すという、道中駅員さんに切符を見られて驚かれるような移動を敢行した。この間、途中泊まったホテルでは 2 時間しか寝れなかったりと、なかなか過酷なものであったが、今まで経験したことのない旅を満喫することができ良かった。(私は 2 日目の朝グロッキー状態になっていたが。)

厚沢部町での活動、1 日目は厚沢部町の副町長、町役場の広報の方にお話を伺い、厚沢部町全体の見学、夜に町長と食事をご一緒させていただく場を設けていただいた。副町長には厚沢部町の現状についてお話していただいた。広報の方には厚沢部町を外に PR するための創意工夫を伺うことが出来た。厚沢部町を見学した際には、農家の方にお話を聞くことが出来、その方が作った豆の加工品を頂いたり、自分でリフォームした工場を見学させていただいたりして、自分のやりたいことにどんどん挑戦していくパワーを感じた。そしてその日の夜、1 日のまとめをグループで始めようとしていた時、突然町長から連絡が入っ

て食事の席にお呼びいただき、ご一緒にお食事をしながら厚沢部町の施策、展望など、厚沢部町についての熱い思いを伺うことが出来た貴重な夜になった。

2日目は道の駅を訪問して観光協会の方にヒアリングをし、現地の小学校を訪問し、子供たちとの交流をして、夜に地域おこし協力隊の方と宴会をした。観光協会の方には将来自分がやりたいことについての相談を聞いてもらったりもして、今後の自分の将来についてのステップを想像することが出来た。現地の小学校の子どもたちは、見知らぬよそ者である自分たちに対しても積極的に話しかけにきてくれたり、遊びに誘ってくれたり、元気をもらうことが出来た。夜の宴会では地域おこし協力隊の方々に聞いたかった話を個人的に伺うことができ有意義な時間を過ごせた。

3日目は音楽療法という協力隊の活動に参加したり、「元気はつらつ教室」という運動療法の活動に参加したり、厚沢部町図書館や体育館、保健福祉総合センターあゆみ、高齢者住宅ゆいま〜る厚沢部等の施設見学を行った。音楽療法とは音楽を刺激として、高齢者の方の認知症予防等に効果があるとされている健康法で、歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりしたが、印象的だったのは我々のような若者を歓迎してくれたことである。こうした若者の訪問も刺激になっているそうだ。運動療法では、若い人でも難しいストレッチやはしご運動を経験した。その後いろいろな施設の訪問を行ったが、高齢者住宅ゆいま〜るでの施設に施されている工夫や、高齢者と地域の方々との結びつき、地域包括ケアについてのお話を伺うことができたのが個人的には印象に残っている。

4日目は「ちょっと暮らし住宅」という移住・交流を目的とした住宅の見学を行った。4つのモデルルームがあるのだが、ここで暮らすのには自分には勿体ないと思うぐらいのお洒落なデザインで、申し込みが殺到しているというお話にも納得のデザインだった。

また、活動期間中様々な食事を食べる機会があった。研修に行く前から北海道には美味しい食べ物はたくさんあるのだろうなと思っていたが、想像以上に美味しい料理に他kさん出会うことが出来た。中華料理や、古民家をリフォームしたお蕎麦屋さん、長い歴史を持つ食堂であったり、どれも美味しく頂いたのだが、個人的というか、恐らくメンバー全員一致で名前が挙がると思うのだが、「カンペシーノ」というカレー&コーヒーのお店のスープカレーがとても美味しかった。そのお店は数年がかりでお店を一から店舗を店主自ら建築なさり、店内に手作りのブランコを設置してある等遊び心のある内装でとても気に入った。店主の方には他にも、店の外に積もった雪で、飛び込んだり、そり遊びをさせて頂いたり、心ゆくまで遊べて大満足だった。

今回私は、「過疎地域ではどのようなまちづくりをしているのだろうか」「過疎地域とはどのようなところなのか」といった知的興味の下厚沢部町での国内研修に参加したわけだが、私がこの研修で一番学んだことは、福祉的方策よりも、過疎地域についての知識よりも、自分自身に対する課題である。研修中、日に日に自分の未熟さ、甘さに嫌でも気づかされた。自覚させられた。

例えば、インプットした情報を自分の中で処理して、それをアウトプットすることができなかつたり、相手の方にヒアリングする際に良い意味での「ずうずうしさ」が足らずに、聞きたい話をなかなか聞き出すことが出来なかつたり、自分の意見を述べる時に声が小さくなつてしまつたり、折角のヒアリングの時間に質問が浮かばずにあまりすることが出来なかつたりと、挙げればキリがないほど課題を発見した。

その中でも特に自分が問題だと思うことは、自分が「謙虚すぎる」ことについてである。

この研修中、メンバーにも指摘されたのだが、謙虚に振舞うことで前に出ることをためらつてしまつたり、自分の意見を述べることを躊躇してしまうせいで、上に述べたような課題が発生してしまつていたのだ。そもそも謙虚という言葉は出しゃばらないという意味で言えばポジティブな意味として捉えられるだろう。しかし、悪く言えば自分自身の見識を深めたり、自己アピールをする機会を自ら無駄にしてしまつている性格なのである。そのせいで、この研修で自分の成長を阻害してしまつていたと思う。

友人や川合さんにはその気質自体は大事にすべきと言われたものの、遠慮はせずに前に出ていく姿勢を心がけるようにして、相手のことを配慮することが出来るようになりたいと思った。

〈終わりに〉

・前書きにも書いたが、今回私は友人の誘いがなければこうして国内研修に参加することはなかつたと思う。

だが、私は参加しなければ、自分自身の課題や、甘さについて発見することも顧みること出来なかつたと思う。だから、個人的には辛いこと、大変なことばかりが思い出として先行する研修であったが、参加して本当に良かったと感じている。誘ってくれた友人には、今はただ感謝しかない。

今回の研修で、将来こんなことがやりたければこのようなところに行ってみると良い、という紹介をしてもらつたので、この研修をこれ限りで終わらせることなく、これからの学習、人生に生かしていきたいと思う。

最後に、厚沢部町の皆様を始め、今回の研修で全面的なサポートをしていただいた川合さん、給付金だけでなく様々な相談に乗ってくださった事務課の皆様、研修についてのアドバイスをいただいた佐藤先生・岩田先生、研修参加について賛同し、支援してくれた家族、今回研修に行くきっかけを作ってくれて、実りのある研修になるよう協力してくれた他のメンバー、その他今回の研修に関わってくださったすべての皆様に感謝の意を表したい。